〈序文〉

尿路結石

下村 弘治

Urinary calculus

Hiroji Shimomura

本誌「生物試料分析」の特集では、今までに尿路結石について取り上げたことはないが、結石分析は臨床現場で身近に行われている重要な検査である。そこで今回は、芝紀代子先生（文京学院大学教授）の協力を得て、尿路結石に関する特集を企画してみた。

尿路結石は疼痛発作を伴う疾患として一般に良く知られている。＜厚生科学研究班編/医療・GL（04年)/ガイドライン＞によれば、下部尿路結石症は著明な変動は認めなかったが、上部尿路結石症の年間罹患率（人口10万対）は、男性では64（1965年）から118（1995年）へと84％増加し、女性では24から46へと90％増加したとされている。これを生涯罹患率（年間罹患率×平均寿命）で見ると男性では4.3％（1965年）から9.0％（1995年）、女性では1.8％から3.8％へと増加した。つまり、1995年には男性11人に１人、女性26人に１人が一生の間に一度は尿路結石症に罹患するという計算になり、特に問題となるのは、若い世代ほど罹患率が高くなってきており、上部尿路結石症患者の増加傾向は近い将来も続くと予想されていることである。

このように尿路結石症は決して珍しい疾患ではなく、その診断や経過観察、再発防止に、結石分析はもとより尿検査などの臨床検査が果たす役割は大きいものと考えられる。この特集では疾患としての尿路結石を解説していただき、尿路結石の分析について理解していただけるように、それぞれの専門家の方々に執筆をお願いした。とくに尿路結石の分析は、原因の追究および再発防止にとってきわめて重要である。この特集が生物試料を扱う読者の方々の研究のヒントとなり、さらに、その研究が尿路結石症の診断や再発防止に貢献できるものと期待します。

文京学院大学 保健医療技術学部　臨床検査学科
〒113-0023 東京都文京区向丘2-4-1

Department of Clinical Laboratory Medicine,
Bunkyo Gakuin University,
2-4-1 Mukougaoka, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0023, Japan